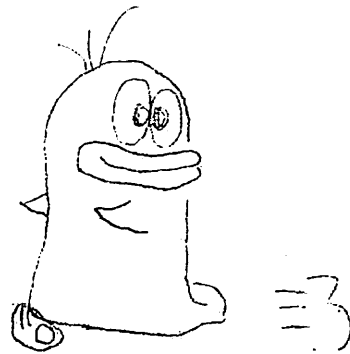


昭和40年度

春山合宿

記録

(A party)



信州大学山岳会

長野山岳部

# 計画概要

## (1) 場所及び方法

北アルプス表銀座縦走

中灰——燕島——捨島——標尾マ根——上高地  
(or 槍沢)

## (2) 期間

1966年 3月13日～3月28日

## (3) 目的

生活技術の習得

## (4) 参加者及び構成

種成秀次	(工2)	C,L	
向後利彦	(工2)	S,L	医療 気象 会計
八木国久	(工3)	記録	
宮下圭介	(教3)	裝備	
宮下秀雄	(工1)	食糧	
寺宮尚夫	(教1)	燃料	

## (5) 連絡先

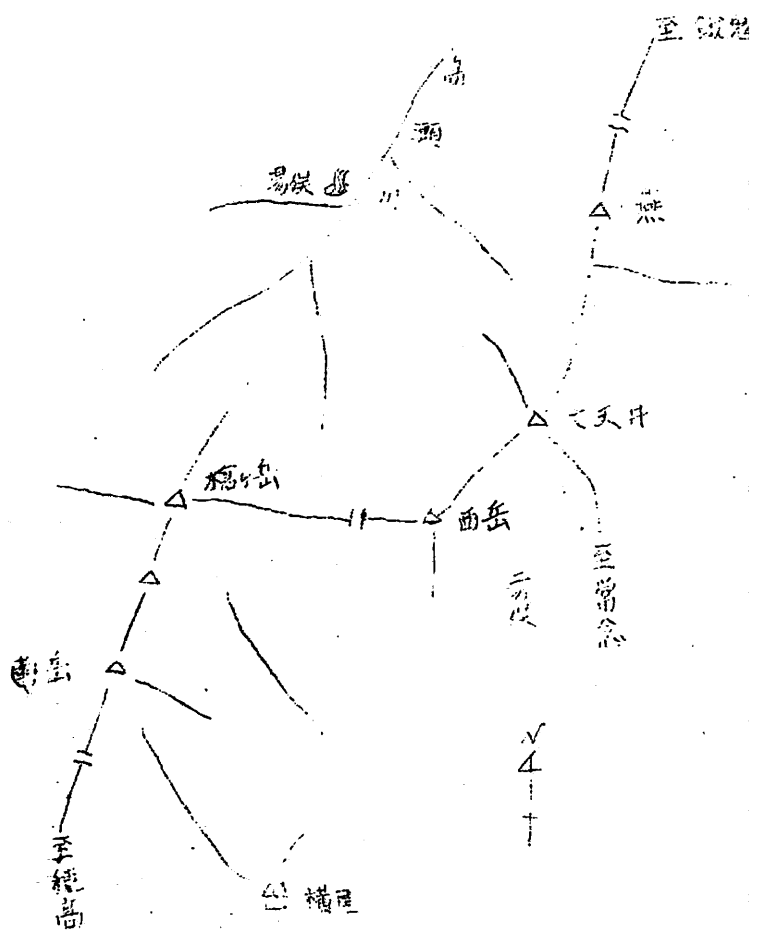
<本部>	信州大学本部厚生課	(3) 2600	
<留守本部>	柴田塘也	長野市南島町997	花屋旅館(2)393
<登山隊>	中灰温東	有明燕島東麓	TEL 中灰温東
	木村小屋	白雲村上高地	TEL 木村小屋

## (6) 行動予定

3/13	長野→有明→中灰	} all weather
14	中灰→	
15	→燕山荘	
16	燕山荘→大天井	
17	予備日*	

- 18 大井 → 西岳
- 19 予備日 ※
- 20 西岳 → 槍
- 21 ※
- 22 ※
- 23 槍 → 横尾 P5
- 24 P5 → 横尾
- 25 横尾 → 中の湯
- 26 中の湯 → 松本 → 長野
- 27 ※
- 28 ※

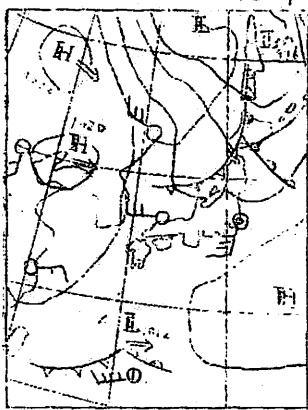
但し ※印は予備日



Ⅱ. 行脚に至るまでの経過の概略

日	内容
11	合宿日程決定 計画書提出
12	ベッキンカ
13	6:55 a.m. 長野たち、甲府まで
14	A隊: 燕までボク。B隊、一瀬キリの森
15	全員燕まで
16	泥
17	〃
18	燕より大木柱ヒョウまで
19	泥
20	〃
21	〃 (引き返し決着)
22	〃 (引き返したのが引き返す)
23	大木柱ヒョウより燕冬駒小屋まで
24	燕より長野まで

3月13日 晴（15時）



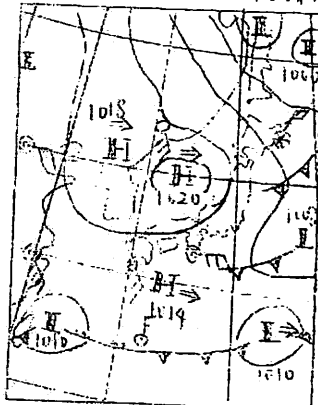
等高線は5m毎

6:00	長野発	11:25	曲沢一本
9:00	有明着	12:10	中房着
9:10	一ノ瀬まで	12:30	昼食
9:45	ハイヤー	1:30	信濃隊營
10:05	一ノ瀬発	2:00	着
10:15	途中到信濃坂取	3:30	夕食
10:45	トラック	6:00	就寝

めずらしく遅刻者がなくスタートはまします。久しぶりの早起きのせいか皆ほよんどしたつらをしている。天気までほよんどしていやからあ、有明から中房の方面へは冬期バスがなかなかでしよんねえ。タクシニ、一ノ瀬までぶつとはず。(2台で金1500円也)一ノ瀬で60kgデポしてさあいいは出発。しかしまもなく後からトラックのおっさんに乗るよにもずすゆらゆる。ちよちよちよする。がのる。昔ホットした表情、信濃坂でおりて歩き出した時々雪がでているがさして苦にもなす。中房までは1ヒッチ半中房のあたりほやはり地熱のためか雪がない。すみやかにさるとテントも張る。この張り方をしているとニホからが楽した。昼食は温泉にっかりながら(手取)いたたいた。向後、ハネで取付附近から少し見てあるいたがます。向題なし。

3月14日 快晴

(15時)



(各区間5km毎)

◎ ボッカ隊 A (ボッカ量 70k)	9:55	信濃坂
Ⅱ 聖成 宮下(香) 吉安	{	(lunch)
5:00 朝食	10:25	祭
6:00 出発	11:00	曲沢橋
6:50 信濃坂	11:50	帰天
7:50 一ノ瀬	4:30	夕食
8:20 祭	6:00	就寝
9:10 一本		

◎ ボッカ隊 B (ボッカ量 50k)

Ⅱ 向後 八木 宮下(香)

6:00 1 出発

6 500m

10:00 合戦小屋着 (lunch)

11:00 祭

1000m

12:20 燕山荘着

12:40 出発

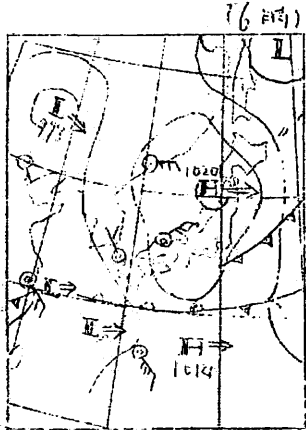
1:05 合戦小屋

1:45 祭

2:45 帰天

出発前リーダーヨリこの合宿は安全でしかも楽しくお泊りなすめと宣せられた。A隊の行方は再ニトラップにすめられたが最後までニスズる。テボッカ量か予想より10k位多くなかり、テン場に着いたのが12時前であつたので昼飯などして過す。B隊は八木の不調もあつたゆかりこのやムトで進み最初の30分セツチが4ヶ所をき小かさは平常に戻つた。合戦小屋ではラーメンをすすって意気高揚タバコを燃やくと何れにしかれた。ヤカたお着かめと思つた燕山荘も着いてしまった。帰りは尻制動はくをまたしたまゝ一息にテントまでおベリおリテ

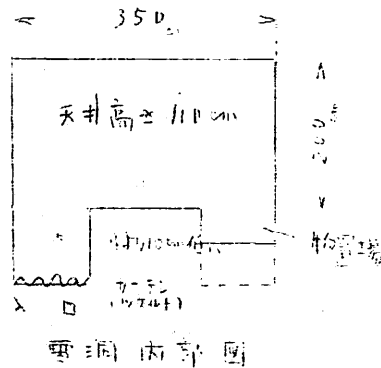
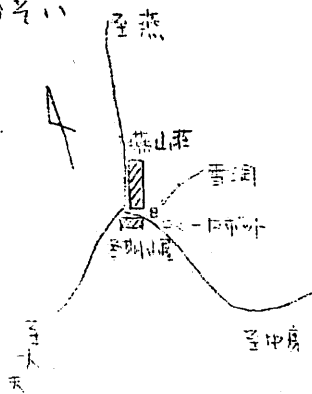
3月15日 高くしりのち吹雪



(単位は500)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 4:30 朝食      | 9:35 合戦小崖通過  |
| 5:45 出発      | 10:00 三角夷    |
| 6:20 オーベンテ   | 10:55 燕山荘着   |
| 7:15 オーベンテ   | 11:15 雪洞堀り及び |
| 8:15         | 3:30 荷始末     |
| 8:30 ハオ不調    | 6:30 夕食      |
| 9:20 > Lunch | 9:00 就寝      |

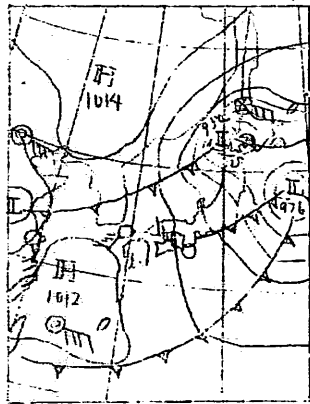
さうは晴れたせいかわらしてある急斜面直登のクラスト  
 時に尻セドの跡などはしめられる。合戦小崖の少し下あたりでハオ  
 鼻血を出し、そこで昼めしとする。かしこのうすりいいペースでいる  
 三角夷あたりからは相当見通しがよく富士南ア、浅間、妙高、近くには  
 斜の木、検見台が高さも競う。燕山荘に着くと皆さまでがに疲れた様子  
 を示す。向後聖成、雪洞の適地を探し、下図の所に決める。雪洞掘りたけに  
 要した時間は3時間半、こいだけ広くかまクラストが連続している所だと時間  
 がかかる。雪洞快調、明日の朝方は天気悪いと予想してか就寝時間同  
 じおそい



雪洞内部図

3月16日 吹雪

(15時)



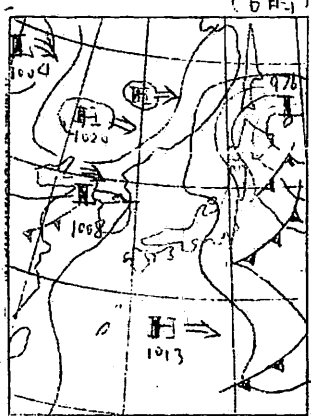
(管区線は50km)

朝の時に掛つても風はいぜん強く予想通り  
況決定 下界では晴れらしいが風は強そう。  
荷物は相変わらず大きいぞいで下山(襦の  
肩より)を二日ちぢめた(水1.行動1) =  
小は従来の経験よりの日程も考え、完全に  
可能であるを見たもの。もちろんこれは荷物  
の重量を考え合わせたものであつて一人

40kg以上もの荷物もよつて険線上を歩くのは当然危険をとまげ。  
それゆゑ全重量も100kg以内(個人装備も含めて)一人30kg内外にとど  
めようとしたもの。外はますます血氣盛ん、頭にヒールをかぶり、オーバ  
ースポーンの上にヒールの両具をして(完全)²装備できい打ちにとむたす  
しまつ、重量軽減のため(?)カンパの品もちぢりちぢりといったく  
ラッセルが大変だ。あしたもあまりいい天気が望めそうにない。昔  
が38°を越える熱を出してゆうらうそう。



3月17日 吹雪



偵察隊  
(L向後、八木)

5:05 朝食  
 7:45 蛙岩  
 8:20 蛙岩  
 9:00 蛙岩  
 11:10 帰天

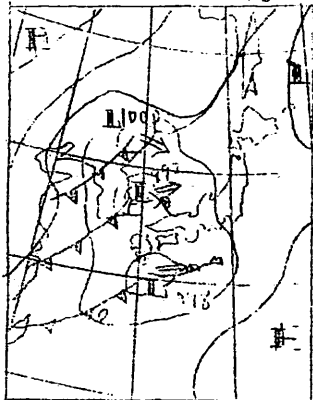
燕隊  
(E聖成、宮下、宮下秀、吉安)

同左  
 8:30 燕 Peak  
 9:05 帰天

(登山道は5時)  
 朝エッセンが少しおどくなる、幸か不幸かした"いに風が強くなり波。そこで少し休め偵察隊と燕隊に出すことを決める。偵察隊は蛙岩のところで本隊とトランシーバーで連絡を取ると、二言三言反応あったのみその後全然連絡取らず連絡作業断念、巻取り所近にいくと吹雪で見通しがなくなり引返す。蛙岩の北と南天側の尾根を向後信州側に行けば高さ10m程度の所10分も歩ける八木に高瀬川側をまわすに指令しかし、これも距離長く10分程かかり、二人が別々別々にあり一時心配があった。その後少し北へ取りちか"えたか"うまく戻るとにかく吹雪がひどく見通しが10m程度のところ困った。燕山荘に着くと、一いさかすけて見えるようになった。夕方には日が出てきたのであすはいいたろう。

3月18日 快晴 うち吹雪

(18時)



(距離 5m毎)

4:30	朝食
6:00	出発
6:30	蛙岩 (区画)
6:45	一本
8:00	切通し岩 (Lunch)
10:15	大天P
11:00	大天ヒコツテ

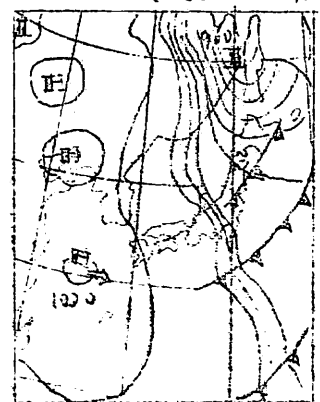
快晴なので快調な出だしはすべて高瀬側に行く。トラバースが  
 のルートが長いので足首が一定方向に曲がったまきりていたが、一本をたて  
 るとすくは体がひえてくる。切通し岩を下る時にハネ足もすかすせ  
 (詳細後述) 5m程落ちる。そこで(真作のレリーフのすぐ前) Lunchとし  
 た。少し休んだ後又しよう。すくはがいやなトラバースだ。そこですく  
 はにフックスして新人をすみやかにわたす。後は快調にいくがPeakの  
 登りきるところで斜面がかなり急になりしこかゆる又大天登りはなる  
 べく岩場を利用した。大天の下りは岩場が広くしかも暗たまきい  
 に氷リついてるのでひやひやする。大天ヒコツテのところでは皆  
 疲れているし、風がすく雪洞掘りは厳しかったためテントにした。  
 しかも雪洞は揺へいって使えるというところであるからテントも又よし。  
 めしきくつてから聖哉トラニミバーで声張り上げと反応なし。

(3/19 晴)



(等圧線 5mb)

(3/20 12 晴)



(等圧線 5mb)

3 3月19日 吹雪 現況

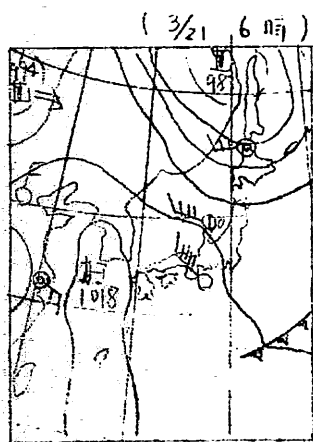
この日は北に予定であったが吹雪のため待ち 100 になる。この時吹雪  
は急激に冷たい風となりもうしつたすさまじさだ。朝起きてみるに  
雪が降り始めていた。さきさき「ミコラフはわっした」。

3 3月20日 吹雪 現況

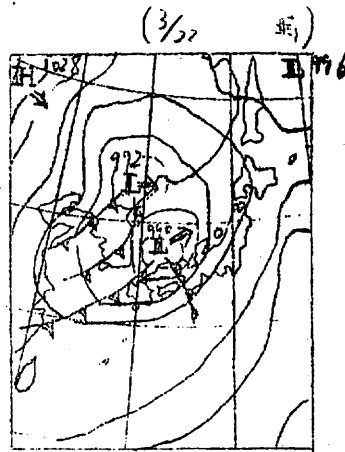
この日は予定通り雪が降り積雪 10cm ほどあり  
雪が降り続ける。朝起きてみるに 11 時の気圧配置が少し変わった  
と見られる。夕食後今後の行動予定を考える。おし食糧は 6 日分あり  
3 日分は残った。天気図でおもわくのないものが現われているのは  
「おし」の予感。取袋 8 時。とにかく平地でこんな生活をした  
はく  
に月邪を引くつにふしと云ふた。

3

3



(与圧線5mb毎)



(与圧線5mb毎)

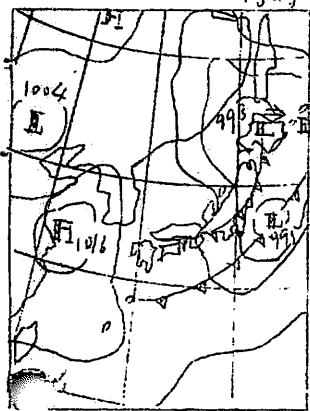
日 21 日 吹雪 沈没

あまりの寒さに耐え切れず"ついに"はおきてホエバヌとたく、同じ  
いせんとして強し、9:15 天気予報の時間だ"さちと"うか...大陸  
に低気圧の一群が現われたおあ夢もるほうもたたいたかガ  
しかし、おの予想はついていたので、それからほう中を中  
の気象が暗くさびりとした。夕方には、快晴、大天が"はかに  
空のいに見えるコニヨキヨウ。この日は、倉うこいお楽しみだ。

日 22 日 ぐもり吹雪 沈没

4時半エッセン、6時半出発。したいいに風がフすくなる岩場は、この便側  
をまくし(カトラバースの途中宮下(佳)スリップ(詳細後述)大天花まで  
とガンバいたが、<sup>きのうの11月でとうとう</sup>3日帰しヒコウラ良の便所の中にいこもる。中には  
雪がフまっていて快適、少し中を人が寝るために整理をした。少し  
暗い"か"とにか、いいギョウちも凜におつたようた。

3月23日 晴小のち曇り



(峠尾線5m毎)

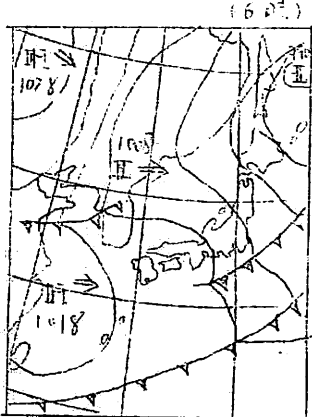
- |       |       |       |      |
|-------|-------|-------|------|
| 8:00  | 朝食    | 2:40  | 一本   |
| 8:30  | 出発決定  | 3:30  | 冬期小屋 |
| 9:30  | 出発    | 10:30 | 就寝   |
| 10:30 | 大天ピーク |       |      |
| 11:30 | 宮下河淵落 |       |      |
| 12:30 | 再出発   |       |      |
| 1:50  | 為山岩   |       |      |
| 2:05  | Lunch |       |      |

沈とおもっていたが外が晴れているらしい急に出発決定、外は晴れて  
 まるくいい日和だ。大天登はリッパ通しかかりしに、かゆる時々斜面がブレカ  
 ブルなので手こずる。下りはPonkより20m位の所より信州側の谷にまわり込む。  
 そのすぐ下はかなりの傾斜、40°近いスリクスする。クラストして、此の全  
 員マアア安定したスチームであり、その後二度スリクスして3/18日スリクス  
 した地盤にさしかかる。八木直止よりリーダーにうかがうが皆調子いいので  
 なしていく事に決める。トラバースも終りに近づいたが、他人のはずみか。

（下河淵滑落ストップストップの声で少し止まるがまたすぐ降りかかるとの傾斜  
 (詳細後述)

すでに体はぜんぜん見えぬ、皆動揺する。あせるな。聖威、向後八木  
 の三人で高瀬側の谷もあり。秀坊は直っている。テ「フリ」で止まったのを「助か  
 した顔は血で汚れている。右ひざが痛くてたか歩かせず。荷物を分け付けた  
 再出発、冬期小屋にしまる。秀坊が今当として、宿最後の日である  
 から食いほうた、食おう。秀坊がわいそつに、夜は遅くはり天気予報  
 が読めてから寝た。

3月24日 快晴



(望月線は5km毎)

6:00	朝食	10:30	天上沢(橋)
7:30	出発	10:45	(望月、井原に合流) トラックデマ-3-
8:00	合戦峠通過	1:00	有明着
9:20	一本	4:00	長の着
9:30	オベツ行通過		
9:50	中房		

朝荷分けをする時に団体装備と食糧(一部)も均等に分けるが、食糧の残りは好きにやつかもっていきエライコッチャ。外は風が少し強い程度で全くいい天気だ。ホンカラホニカラとはいかないね。香坊も気にしてかかなりルートも制約される。尻カド-快調なれど気分悪し中房近くになるとやはり雪がくさっている。中房で-春夏山スタイルに夜がえ。トコトコ林道を歩くのも又楽し。ちつと歩いて天上沢の橋の上で望月、井原と合流。抑あいつら先に降りたのがよく聞くと連絡に来たらしい。一年生は三人が上高地へはいるとのことエライコッチャ。すくりにトラックもつかまえて信濃坂まで発電所をこえてで昼めしてくい又トラック調子いいね。香坊は悪くなく長のまでいけるというので有明では医者にかかず長のまでいって連絡本部が代わっていたとは驚きいたね。

IV 一連のスキー事故に對する状況と考察

① 3月18日 8時40分 八木隆夫

② 3月22日 8時00分 宮下圭介

③ 3月23日 11時30分 宮下隆雄

○ ①については荷物が30kg 急降下りを雪を背にして長いステップで一度に降りるとしてのが原因のように思われ雪崩が起きかぬか降りたこの地点においた雪も生じていて雪も冷やされたまた落ちてから斜面を甘くみてストップの姿勢にならなかつたのは付あす。11時落ちたはこの傾斜50° 静止地点の雪は約10m 落下 体調悪くは悪くはなかつた、雪質は湿っていた。

○ ②については荷物は20kg 値もた宮下(圭)はバリバリのテントのためパッキング悪く最初からバランスが良くはなかつた。そのためにラバーズに入るや足着よくまわす。ついに足をさくらぬ。まきむくストップの姿勢に甘んばつてよくその形も維持し続けうまくストップに成功。傾斜は30°位で停止地点においてもうほど変わらぬ。雪はカチカチのクラスト(前日の好天による) 10m 落下。

○ ③については荷物20kg 彼は夫天の登りですこしへばり見える。トップの差常に2-3m しか下りになつたからかなりいいバランスも見せ最初のフックスしたかなりの傾斜をスムーズに降りる。滑落地点はさほどむずかしいところではなかつた。ステップは雪のいいつくつてあつたし雪質もかなりしまつていた。ただ彼のタックルに入っていたクシモナが出さぬしてしまつていたので少しアンバランスに付つていたのもいくらか影響していたのかもしいない。その地点に「けちまの雪筒がチガ」ついでトップの人もはつとした。とつていた。とにかく本人は原因がわからぬのであるから





## V 計画変更について

聖成 喬次

21日には大天井ヒュッテのヒュッテでテン張っていた。そこで  
槍沢より下山する場合、少くとも実際2日予備日一日の三日間  
が必要のため、遅くとも25日には槍の肩に着かなければな  
らない。計画では大天井から槍まで5日とてあるが実際には  
あと4日しかない。しかも21日4:00PMの天気図上には次  
の気圧の谷が接近していた。又西岳から東鎌尾根にか  
ては雪質、天候について充分な予備日なくして行くのは良  
くないと考えた。

以上の事より21日に好天になり次第予定を変更して中  
房温泉へ引き返す事に決定しました。

# VI 各係の反省

## 重食糧係

日	朝食
13	
14	マカロニ
15	マカロニ
16	マカロニ
17	ラーメン
18	ラーメン
19	マカロニ
20	水とん
21	マカロニ
22	マカロニ
23	マカロニ
24	マカロニ

## 宮下秀雄

夕食
カレーラーメン
ラーメン
ラーメン
米
マカロニ
水とん
ラーメン
ラーメン
ラーメン
水とん
ラーメン

○ 昼はパン4枚(白パン6枚)とチーズ・バター・干しぶどうのたけを  
用いた。

○ 水とんの粉を用いて干ヤッピーを一回行う。

○ マカロニ 150g/人 はやや量が多し、豚脂には味付けをするに  
抵抗なく食べられる。

○ 松永ラーメンは比較的食べやすいラーメンであった。

○ 18日夕方の食糧として(17日にニワ操作を行なった)

ラーメン 90袋

マカロニ 21袋

パン 48袋

アメ 8袋

その他野菜、カレー、鍋、おのり  
たもの18回分(朝と夕)

昼のチーズ、バター、干しぶどう。

を持ち、残ったものはすべて雪洞に残していく。

○ 重量の軽減にニワカが「1100kg」用の箱も入れて一人13kg  
1日810g強と成功したが、その後人員変更で多少変わった。

○ 今回特に考えたことは、いくらカロリーが高くても食べやすくは  
ないこと。

## 2. 気象係

向後利彦

今回は全く予想外の天気だった。甘んじ同様に俺には全く見当がつかなかった。時にはヒステリックに大荒れに荒れていた山が"空気が静かすぎ"、風もやわらぎ"穂高の姿を現わして訴惑する様。地球の生理目には"つかつたものも諦めよう。

下界にいる時はあれもしょうもないし、思っていて結局、山に入るといつもと同じで"終わってしまうのが"常であるから、今回は何事もなかった。たしかに"当夜"寒、雪の状態を詳しく調べる事は"らしい事だ"。しかし"小程までにする"必要があるのか？ 地形を見るのに、山の"高さ"や"谷"で"測量"も"どき"の事"しなくても"良いだろう。"詳細調査を目的とした山行ではないのだから、"語呂"名目"が"写"して"い"れば"天気"に"対する"判断"もある"程度"で"よい"に"思"う。"そこで"気象係は"単に"天気"と"著く"ことに"終る"のでは"ない"か？

## 3. 医療係

向後利彦

よく出た薬

風邪薬、目薬

ほめた事

オキシニルと挿入いかなかった

ロキニについて

ホパインのホウレン草をちがひなく"飲み"はく"あり"飲"ま"な"か"つ"た"よう"だ"。

病人

風邪・気味

2名

便秘

2名

ものもらい

1名

けが

1名

燃料係

吉岡尚夫

品名	計画量	使用量
1. ガソリン	$0.25 \frac{\text{L}}{\text{人}} \times 16 \text{日} \times 7 \text{人} = 28 \text{L}$	18 L
2. ローソク	1日 $\frac{1}{3}$ 本 $\times 16 = 6$ 本	6 本
3. メタ	和製メタ 9ヶ	和製 3ヶ 国産 31ヶ
4. マッチ	6箱	0

1. ガソリン

- ・計画は7人分28L(入山者6人)使用量は計画よりもはるかにこまは、下山前に多量に使用した為、捨てた2L入のガソリンももっていたガソリンの残りは全部すべてさました。
- ・1日1人0.25Lの使用量について(Phoebus一台は0.6L入)今回は米を使用しなかったためニ小で良かったと思います。冬春にはエッセン用の水を作るのにホエブス2台で約20分、その後~30分で出来上り、一台でお茶を作るのに約25分、朝も同様、紅茶をわかすのに約25分、合計約140分(紅茶なしの場合)はよって空だきは約一時間可能という結果が生じます。ニ小はお米(空だきに)を使用しなかったためであり、米を使用した場合は不明ですが、しかし空だき分は米は棄てたため空だきなしならこ小でもと思います。ガソリンの運搬中の損失、ホエブスに入小した時の損失は少ないのでニ小の考慮も大切です。

2. ローソク

60分のもので1日  $\frac{1}{3}$  本で可能(しかしニ小はもろ運むに不便、(しかし位の風では火が消えなくてよい。))

3. メタ

計画書には和製メタ9ヶと致しましたが冬山の残りスラッパ製国産メタ31本と和製メタ6ヶをもつていきま

和製メタは一日 $\frac{1}{2}$ 缶でよいと思わします。固型メタは試験的に持参しましたが1回1缶のホエアスに一本で十分、火力も強いし、値段の事も考えなければこれがよいと思わします。50本で $\frac{1}{3}$ 350 1日最低6本使用します。

#### 4. マッチ

使用したのが最終日の5.6本、各自のマッチで済みそうです。

VII 会計報告

向後 利彦

収入	合宿上 (富士山研修)	$3800^{\text{円}} \times 7^{\text{人}}$	<u>Total 26600<sup>円</sup></u>
支出	食糧	(小計)	<u>18460</u>
	（代）		3360
	（送料）		15100
	燃料	(小計)	<u>2580</u>
	（夕）	$50^{\text{円}} \times 9^{\text{ヶ}}$	450
	（揮）	$55^{\text{円}} \times 28^{\text{ℓ}}$	1540
	（ガソリン）	$50^{\text{円}} \times 7^{\text{ヶ}}$	350
	装備	(小計)	<u>1645</u>
	（コギリ）		480
	（電池）		540
	（フィルム）		150
	（その他）		475
	気象	(小計)	<u>60</u>
	（天気図）		60
	医療	(小計)	<u>105</u>
	その他	(小計)	<u>2400</u>
	（電話代）		200
	（タクシー）	（都合によりとにかき出物決定）	1500
	（遣り金）		700
		支出合計	<u>26445</u>
残高			155

## VIII 感想

### リーダーの自覚

聖成 秀次

世間の人々はよく「学生は物事を甘く考えすぎてる。」と云う。それに対して、そんな事は無い。他人はともかく自分は苦勞しているからと云うことを良く耳にするが、はたして疑問に思う。以下今度初めてリーダーという又役を引る受けた事によって感に筆を言え見ます。

山岳部におけるリーダーは小學校の遠足の引率の先生と誤謬が違ふのです。同行者特に新人の生命であつて居るのである。その生命は両親が20年も苦勞して、それがやがて一人前に立つ寸前にある者です。

当然の事ではありますが積雪期、岩登等、まり危険の多い山行のリーダーは、その相應の適格者でなければなりません。

以前、合宿前のある男からこう言うことを言われた。「お前さんは殺人をおかそうとして居る。これは少し言過ぎかもしれないがわかるおな氣か」する。部ウメシモ4年、5年合宿事によつてリーダーに於けるのは間違つて居る。部Uはリーダーの必要條件がもし出始めが充分条件ではないはずです。

バスの運転手が「自測を誤つて転落すれば」刑事責任を追究されるが、他人でリーダーが判断を誤つて遭難を起しても刑事責任を追究されないのが不思議である。勿論そのリーダーは後苦しい事かもしれないが事故を起してからではもうおどいのです。

自分も今まで色々たリーダーのもとに合宿に参加して来たが、本当にパーティーの安全をばつた通達者、と感じたのはごく少数です。(自分の目に写つた範囲)

こんな事をいうと「スーパーアルピニズム」とかいうどえらい事を目指して居る連中から「そんな事で山に登れるか」と怒られようであるが、それは、その云う人達で他人山行として行けば「喜ぶのであつて、合宿と云う名のもとに無知な新人を引き込む必要はないと思ひます。親が心配するからと退部を申し出る

部員を引留める以上我々はもつと部員の安全をはかる義務がある  
と痛切に感じました。

## 春山感想

吉岡尚夫

「あんな危険な山に何せ登るのか？」と察へ帰つても叔父の家に行つてもよと言われる。この危険という言葉は私は完全にわかっている  
ようでわかっていたが、今回身をもつて経験した。山は危険である  
とは前々からわかっていたのに。

何か危険かというは自然の脅威からの危険はたゞの身にもあおひ  
かぶるつてくるもの。しかし自分の不注意、技術の不足からの危険は  
いくら立派なパーティーにいるからといつても自分の事なのである。「あ  
」と思う間もなく、身にふりかかる危険はとうとうしたさよのひのであろうか  
どこにあるのか不明な危険！という穴場、私は、自然の危険とくら  
我が身からの危険防止には細心の注意をした。

今回天候に恵まらず途中から引き返してきたが天候等、自然と  
我が身との危険、私はつくづく感じた。

(巻頭)

宮下秀雄

今回あのような事故を起こしてまことにすみませんでした。  
たつた一つのためにパーティー全体がいかに拘束されみんなに迷  
惑をかけるものかとつづく感じられます。幸いにも救急メート  
ル足らずで止まり、たいした傷もなくたぐりか歩けたので遭難とい  
うたことにはなりませんでしたが、一歩まちがつていたと大きな  
事故になつていたと思います。それとともに山には常に危険がま  
ちあつておられ、息をゆるせば、それに陥る可能性が充分にある。そして  
最後には自分のみか、本当に自分のみかたまりになるということをも  
って感じました。何せスリップしたのかという最大の原因はやはり下山  
目であり、二水で危険なところは、終つたという気のゆるみであり、技術  
の未熟であったと思います。山へ行くからには普段もつとつとトレーニング



すばりであり今回のニハも何にかし山へ行く前からこんな  
なことがあるような予感がありました。

---

◎ 記 3 小 1

入山前より記3小の構想がまはります"女"はくた"人"はくた  
た"人"はくたを"女"はくたにたします。

発行日 4月16日  
無断転載禁ず

